裝劍奇賞

諸工系譜
後藤氏家譜（附同苗諸工）

貳

139
7
209

東京圖書館
和書門
類 兵法
函 ~~二九~~ 一三九
架 ~~一~~ 七
號 二〇九
冊 七

ガラス使用

東京圖書館藏

装劍奇賞巻之二

浪華　稲葉通龍新右衛門著

彫工系譜

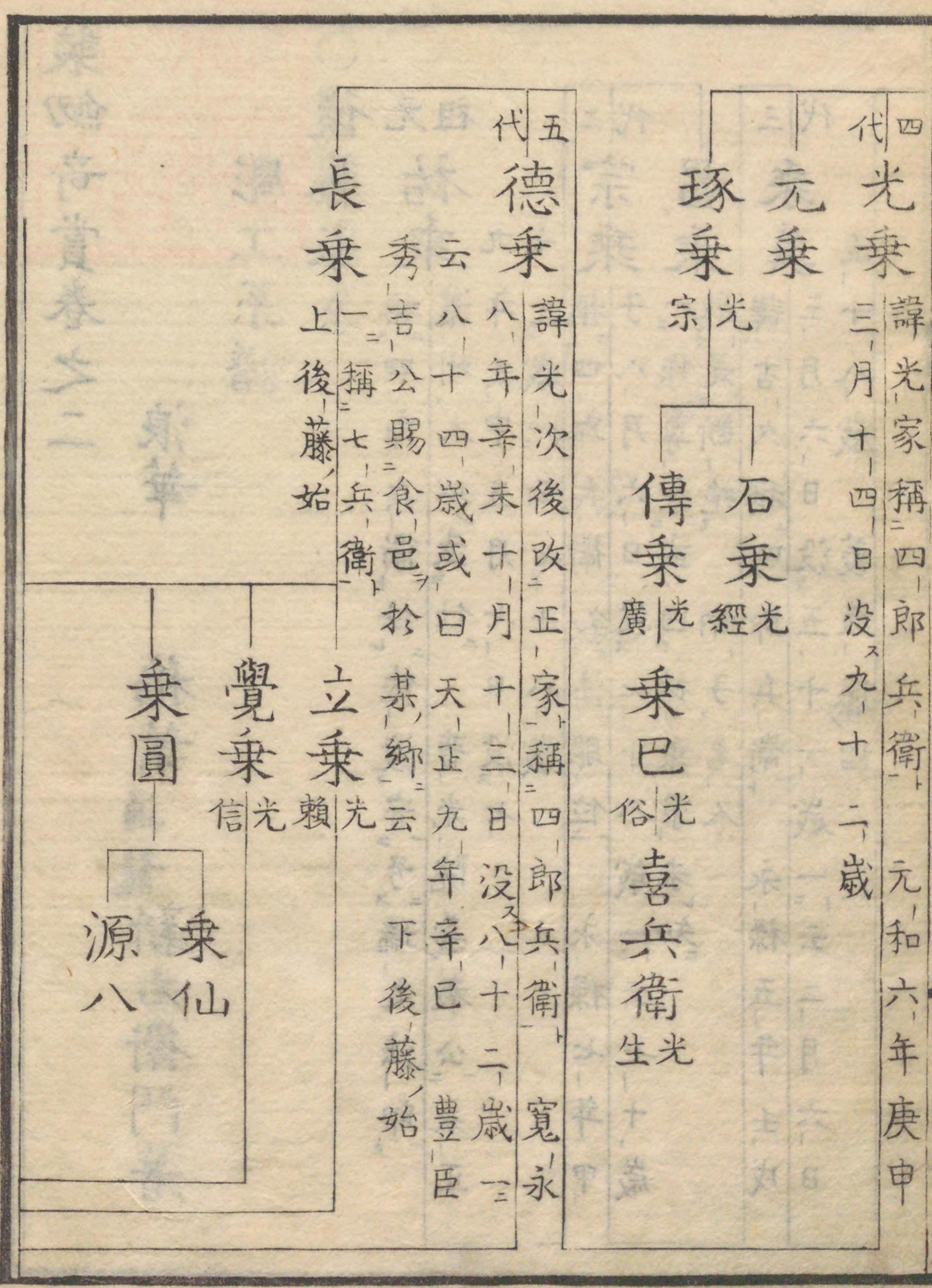
○後藤家系

元祖　祐乘　稱四郎兵衛任佐渡守号瑞之法印濃州人以武仕普光院義教公永正九年壬申五月七日没七十三歳一云七十八歳

二代　宗乘　稱四郎兵衛叙法眼位　永禄七年甲子八月六日没七十八歳一云七十歳

昌乘　一作尊乘或曰祐乘弟未知孰是断絶納子名人

三代　乘眞　諱吉久稱四郎兵衛　永禄五年壬戌三月六日没五十一歳一云二月六日五十八歳　菱後藤始



四代 光乗（諱光家稱二四郎兵衛一ト元和六年庚申三月十四日没ス九十二歳）

元乗

琢乗（光宗）

石乗（光經）

傳乗（光廣）

乗巴（光俗）

喜兵衛（光生）

五代 徳乗（諱光次後改二正家一ト稱二四郎兵衛一ト寛永八年辛未十月十三日没ス八十二歳一云八十四歳或曰天正九年辛巳豊臣秀吉公賜二食邑ヲ於某郷一云下後藤始）

長乗（一ニ稱二七兵衛一ト上後藤始）

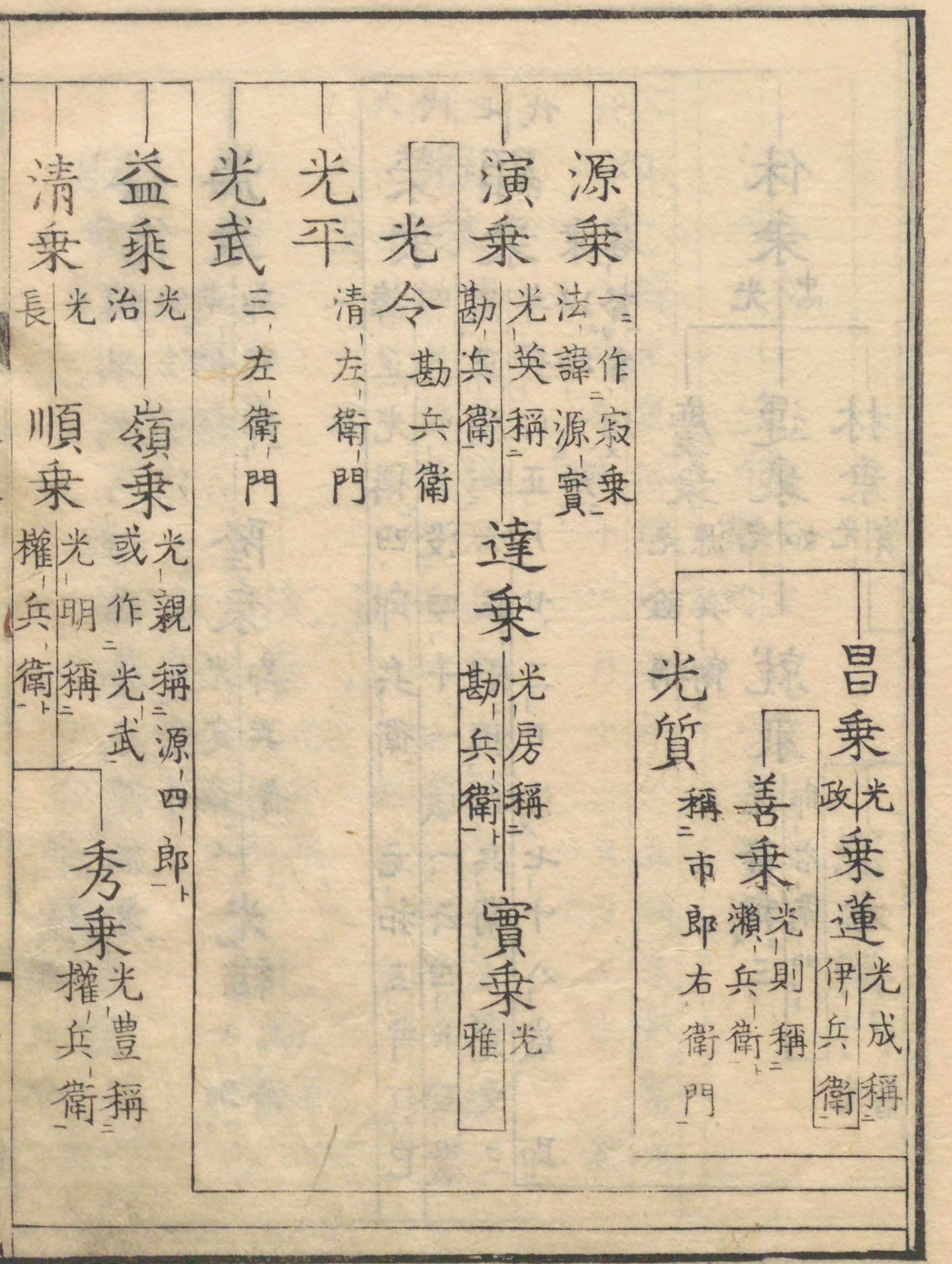
立乗（光頼）

覺乗（光信）

乗圓

乗仙

源八



源乗（一ニ作二寂乗一法諱源實）

演乗（光英稱二勘兵衛一）

達乗（光房稱二勘兵衛一ト）

實乗（光雅）

光令 勘兵衛

光平 清左衛門

光武 三左衛門

益乗（光治）

嶺乗（光親稱二源四郎一ト或作二光武一）

清乗（光長）

順乗（光明稱二權兵衛一ト）

秀乗（光豊稱二權兵衛一）

昌乗（光政）

乗蓮（光成稱二伊兵衛一）

善乗（光則稱二瀬兵衛一ト）

光質（稱二市郎右衛門一）

益信（稱采女為探幽養子號洞雲　叙法橋位一云覺乘ノ子）

光教（權之介）

海乘（光綱稱三郎四郎）

隆乘（光定稱七郎兵衛）

光維（七郎兵衛）

六代　榮乘（諱正光稱四郎兵衛　元和三年丁巳四月四日没四十一歳一云四十三歳）

七代　顯乘（諱正繼一云正綱稱理兵衛寛文三年癸卯正月廿二日没七十八歳　即乘以幼少預家督看坊）

休乘（光忠）

慶乘（光詮稱源兵衛）

運乘（光如）

就乘（光隆稱三郎右衛門）

林乘（光實）

源右衛門（光舊）

源太郎

法乘（光方）

光信（半左衛門）

光數（半左衛門）

八代　即乘（諱光重俗稱未詳年十五嗣家督寛永八年辛未十一月十三日没三十二歳一云二十八歳）

九代　程乘（諱光昌稱理兵衛或銘呈乘廉乘以幼少預家督看坊延寶元年甲子九月十七日没七十歳）

良清（小判座良重）

悦乘（光邦稱理兵衛）

光治（源一郎）

寛乘（光永後改光利）

光倍（理兵衛）

殷乘（光富）

俊乘（光永稱八郎兵衛）

快乘（光勝稱八郎兵衛）

ガラス使用

作重郎 ── 光黄（七郎兵衛）

仙乗　光清稱太郎左衛門ト

源之允　為ル廉乗ノ養子ト

十代

即清　稱庄三郎ト

廉乗　諱ハ光侶稱四郎兵衛ト十五ニ嗣ク家督ヲ寛永五年戊子十二月廿三日没ス八十二歳

泰乗　光尚稱治左衛門ト

乗與　光近

治左衛門　光寄

十一代

乗賢　光嘉稱源四郎ト貞享元年四月十九日没ス二十九歳

通乗　諱ハ光壽初稱源之允ト後改ム四郎兵衛ニ實ハ仙乗ノ子ナリ享保六年辛丑十二月廿七日没ス五十三歳

光幸　源次郎

十二代

壽乗　諱ハ光理稱四郎兵衛ト寛保二年壬戌二月九日没ス四十八歳

十三代

光孝　四郎兵衛

光佐　唯吉

光儔　吉五郎

光典　吉次郎

右系譜（ケイフ）キハメテ校正（カウセイ）ストイヘトモ同苗ノ系派（ケイハク／ツリノワカレ）ニ至テハ猶差謬（サビウ／タガヒアヤマリ）アランヿヲ恐（オソ）ル後ノ君子補正（ホセイ／オギナヒタダス）シ玉ハンヿヲ子ガフノミ

ガラス使用

○奈良氏系譜

元祖 宗貞（称才市）

宗有（称越前）

利治（称四郎兵衛）

利永（称七郎左衛門）

利光（號宗閑 称七郎左衛門）

重治（称重兵衛 利永弟子）

利壽（称太兵衛 利永弟子）

正長（利永弟子）

辰政（利永弟子）

正親（称清六）

陳孝（正長弟）

正敷（正長子 称善二 正長弟）

政随（利壽弟子 称太郎兵衛）

乗随（政随子）

矩随（政随弟子）

正間（正親弟子）

正重（称新太郎 正親弟子）

安親（称弥五八 辰政弟子）

善三（名ハ壽永 利永弟子）

乗意（称太七 善三弟子）

安信（安親ノ子 後改安親）

辰房（称金平 安親弟子）

常和（称喜六 安親弟子）

○横谷氏系

宗與（名ハ盛次 称次兵衛 京師ノ人 寛永年中下ル江戸ニ）

宗知（名ハ次貞 宗與ノ子）

宗珉（名ハ友常 称次兵衛 宗知ノ子 御用御彫物工 後辞御扶持）

英精（称伊右衛門 宗珉ノ子 宗與ノ兄）

宗與（名ハ友貞 明和三年隠居ス）

忠兵衛（宗珉弟子）

宗珉（名ハ友次 当代 宗與ノ子）

友武（称傳三郎 友次ノ弟）

宗理（同上）

英充（號自立軒 宗與弟子）

茂周（称町田金蔵 同上）

○江州辻氏系

ガラス使用

充昌 稱丹治號臨川堂江州坂田郡國友村住人御鉄炮工辻又左衛門弟終身不娶

常成 稱孫助號樂水堂充昌從兄弟

格亮 稱國友平四郎號娣水堂充昌從兄弟

完度 稱國友新四郎號永川堂格亮弟子

昌安 稱源七五十川氏號養松堂完度弟子

○加州桑村氏系譜

盛良 稱與四郎顕乗弟子

弘良 初銘古工稱佐右衛門法名浄空盛良弟程乗弟子

富久 稱小四郎程乗弟子

盛征 稱次郎三郎弘良弟子

盛勝 稱又四郎後改長右衛門法名宗順弘良弟覺乗弟子

盛弘 稱治平法名了由盛勝弟覺乗弟子

盛明 稱治平

盛審 稱清四郎盛弘弟演乗弟子

盛津 稱金四郎程乗弟子

盛禔 稱善次弘良弟子禔字未詳

克久 稱源左衛門法名序休

良弘 稱與三兵衛克久弟為弘良養子

○加州後藤氏系

市右衛門 名未詳顕乗弟子

清二郎 名未詳

吉定 稱才次郎

詮清 稱七兵衛

久清 稱七兵衛

清冷 稱七兵衛

清左衛門 名未詳

○同水野氏系

ガラス使用

好榮　稱ス二源次一ト　演乗弟子

源八　名未レ詳　早世

源七　名未レ詳　早世

照喜　稱ス二源次一ト　家督

多光　稱ス二源六一ト　為二両家一ト　自レ此分ル

光政　初ハ二某一　後ニ稱ス二源六一ト

○能州後藤氏系

甚右衛門　名未レ詳　世ニ稱ス二能登後藤一ト　加州後藤ノ別家ナリ　琢乗ノ弟子　後住ス二加州ニ一

光章　稱ス二甚右衛門一ト

豊光　稱ス二松三郎一ト

庄兵衛　琢乗弟子

○越中富山若林氏系

傳三郎　通乗弟子　金子氏也

盛定　勝木氏

次太夫　小澤氏

氏春　若林氏

隔水　稱ス二六郎兵衛一

彦四郎

理房　稱ス二庄次郎一　後改ム二見二一ト　島田氏　盛定ノ弟子

理直　稱ス二庄太夫一ト　後改ム二見水一ト

光定　稱ス二藤大夫一ト　村上氏

兵次　川上氏

阿三次　渡邊氏

○通龍按ニ盛定・次太夫・氏春ノ三人、其姓異ナルヲ以テ見レバ、金子氏ノ弟子ナルベシ。又理房・理直ハ父子ニテ、光定以下弟子ト見エタリ。但相弟子ニヤ、又師弟ト次第セルニヤ、スベテ詳ナラズ。今所聞ノヽヲ記ス。猶此類多カルベシ。幸ニ其鹵莽ヲ罪スルヿナカレ

○京師宗田氏系

ガラス使用

- 又左衛門（太刀金具小柄笄白銀工宗乗同時ノ人ト云フ）
  - 又兵衛
    - 又左衛門
    - 又七
  - 仁左衛門
    - 仁兵衛（始テ為ニ納子工ト）
    - 又兵衛（始テ作ル五目納子ヲ）

- 仁左衛門（納子工）
  - 又左衛門（入道號ス道一　清納子工）
- 又兵衛（入道號道意）
  - 德直（稱ス又兵衛ト入道號ス道歸　納子工上手）
- 直道（稱ス又兵衛来テ住ス大坂ニ入道號ス道直ト宗田氏ノ彫物自ニ此人始リ納子モ亦上手）
  - 直重（稱ス又七ト）
  - 直峯（稱ス治助ト　直道弟子）
- 傳八（德直弟子　納子工）
- 四郎兵衛（同上ニ後歸ル濃州岐阜ニ）

○同　植村氏系

- 安宣（稱ニ忠左衛門ト　野田氏）
- 國長（稱ニ九兵衛ト　植村氏）
- 宗峯（稱ニ九右衛門　國長ノ孫）
  - 高房（稱ス九兵衛ト　宗峯ノ子）
    - 秀次（稱ス伊兵衛ト　高房弟子）
    - 富祐（稱ス佐兵衛ト　高房弟子）
  - 吉兵衛（宗峯弟子）
  - 利助（同上ニ）
  - 與兵衛（同上ニ）
  - 源兵衛（同上ニ）

○同　井上氏系

- 三郎左衛門
- 茂保（稱ニ文次郎ト　三郎左衛門五代ノ孫）
  - 喜兵衛（茂保弟子）
  - 五郎兵衛（同上ニ）

ガラス使用

九兵衛（同上）
半兵衛（同上但同居弟子）
伊兵衛（同上）

〇同　保井氏系

光定（稱後藤七郎兵衛後改隆乗）
善長（稱佐兵衛古川氏光定弟子）
髙長（稱虎平父云平右衛門古川善長弟子）
長常（髙長弟子後稱一宮越前）
壽秀（稱平右衛門髙長弟古川善長弟子）
髙廣（稱平右衛門壽秀子）
興道（稱藤助時岡氏壽秀弟子）
敬道（稱權八久保氏壽秀弟子）

〇長州灞城府鐔工中井氏系

元祖 光恒（號乗寛隱士明徳年中人住防州山口鐔工創業）
恒乗（稱新左衛門）
恒之（稱文右衛門）
信恒（稱文右衛門元和年中人當代自防州住萩府）
友恒（稱佐兵衛）
友幸（稱善助但自當代專作人物鳥獸屬）
友恒（稱善助西自當代為獻上鐔工山水人物等手籠鐔長州中興名工）
友之（稱善兵衛萩府細工町住）
友信（稱彦左衛門丕友之弟別宅住所同上其銘以草字作之）

〇同　岡田氏系

埋忠明壽（京師人已出）
正知（稱彦兵衛明壽弟子住萩府）

ガラス使用

宣政 稱善左衛門 當代改岡田 元禄六年有故自

宣重 稱彦左衛門

政詮 稱彦左衛門

政勝 稱善左衛門

政富 稱彦兵衛

〇同 仲原氏系

幸直 稱吉兵衛 始為彫工中等之作也 正徳年中人金子幸仲弟子

幸登 稱吉兵衛初名ハ幸久幸直男 上手也

〇幸登未弱冠喪父勵志起業專師古作不屑問時匠自成一家鍔縁頭之外彫刊各巧妙於是名声日聞故長州侯賜俸命使作献上物於東都屢見稱其工云今猶存在已及知命

幸利 稱源左衛門幸登男其工能繼父之名声兼善画

度之 稱源助中邑氏幸登弟子金具師兼彫工

幸良 稱半兵衛吉山氏幸登弟子鞘師兼彫工

〇同 岡本熊之允系

友治 稱惣次郎後改次郎左衛門 萩府住 慶長年中人

友光 稱喜平次後改佐右衛門

友義 稱小兵衛 延寶年中人

方高 稱佐右衛門 後号枯喜 名工

方一 稱小兵衛 中等之作

知賢 稱熊之允 學工於東都時善彫物

〇同 岡本藤左衛門系

友次 稱藤左衛門元禄年中人自江戸来住萩府本雖非彫工好善之其名自顕仍

ガラス使用

長州侯賜俸行年八十没

- 知義　稱甚左衛門
  年七十二没
  - 義勝　稱藤左衛門　住蛭子町
    縁頭小刀柄等諸彫物調進献上物
    - 義次　稱藤之進義勝男　弱冠學画於雲谷
      某善之好彫入物山水鳥獣龍魚甚密

○同　藤井氏系

- 清風　稱源兵衛　金子幸仲弟子始為工
  - 幸永　稱源兵衛　清風長子
    鍔縁頭之外諸彫物各好巧密
    - 幸貴　稱源右衛門　幸永長子　上手也
      其工倣乃父之巧密更加一等

○水戸玉川氏系

- 功阿彌（菊池氏）
  - 通壽（稱彦六功阿弥弟子）
    - 美壽（稱三郎四郎玉川氏通壽弟子）
      - 正壽（稱文平）
      - 治三郎（文平弟）
      - 美久（稱太七美壽甥而弟子）
        - 吉十郎（美久弟子）

○京師岡本氏系

- 治國（稱傳兵衛京師人）
  - 尚茂（稱源兵衛治國弟子世稱鉄源初曰）
    - 尚方（稱源兵衛尚茂養子）
      - 敏行
    - 重基（稱金兵衛久保氏尚茂弟子）
      - 武教（稱宇兵衛重基弟子）

○同　加藤氏系

ガラス使用

隆乗（後藤氏）　善長（古川氏 隆乗弟子）　義休（稱治兵衛 善長弟子）
時秀（稱治助 義休弟子）

○作州津山正阿彌系

勝三郎（白銀工）　勝三郎（初稱五郎兵衛）
七郎兵衛（勝三郎弟子）　吉久（稱平助後寓京師）
平助（初稱平七）

○同中川氏系

五助（白銀工）　五助　勝次（稱助三郎）　勝久（稱勝助）
義克（稱甚兵衛）　勝正（稱安兵衛）

○同千代氏系

久助（白銀工）　久助　久助（初稱喜左衛門）
久左衛門（久助弟子）　千友（稱忠助）
作右衛門（久助弟子）　作右衛門（初稱勘兵衛 作右衛門子）

○江府岩本氏系

忠兵衛（横谷宗珉弟子）　宗乙（稱忠兵衛 至テ下手）　良寛（稱與八 宗乙子）
宗寛（稱辛八 実ハ良寛弟）　宗寛（稱五郎八 実ハ良寛孫）　昆寛（稱喜三郎 実ハ良寛弟子 後養子トナル）

○同荒井氏系

次郎兵衛（石川氏 住神田）　典容（荒井氏稱次郎兵衛 石川氏弟子）
典昌（稱小三郎 典容子）

○同津氏弟子系

ガラス使用

尋甫（稱ス八左衛門ト津氏）

忠吉（野村氏初稱辻平八ト尋甫ノ弟子）

正次（野村氏忠吉弟子）

○

加州象眼工小市氏系

永政（三郎右衛門）

永重（四郎三郎）

永次（弥左衛門）

永國（弥左衛門）

永次（弥左衛門）

永次（弥左衛門）

○

同永良系

永良（勘右衛門）

永良（勘右衛門）

永久（七兵衛）

永久（源左衛門）

永信（六右衛門）

永信（吉大夫）

永吉（長左衛門）

永吉（喜内）

永清（勘六）

永定（次助）

永光（半兵衛）

永光（豊平）

永次（豊次）

○

同國永吉重弟子系

國永（姓氏未詳稱次郎作ト寛永中ノ人與弟吉重學彫ヲ於琢乗加州彫物ノ祖ト云フ）

國久（十左衛門）

國久（十左衛門）

國廣（與右衛門）

國久（與右衛門）

國安（弟子）（與三右衛門）

平國（三右衛門）

國平（喜兵衛）

國平（與三右衛門）

國政（與三左衛門）

國長（八左衛門）

國忠（權左衛門）

ガラス使用

吉重（称五郎作ト與兄國永以俗称名ヲ于影物ニ各賜禄五拾俵ヲ後世以其名ヲ呼テ如姓ノ）

弟子
吉則（庄九郎）　吉國（孫右衛門）　森方（源四郎）

吉國（長右衛門）　吉次（八大夫）　吉平（善右衛門）

○同　勝木氏并弟子系

盛定（称與三右衛門ト承應年間従伏見下テ住ス加州ニ賜禄五十俵ヲ）

盛定（與四郎）　盛定（與四郎）　盛光（称勘右衛門ト改勝木半次郎ト）

弟子
盛光（八兵衛）　守良（惣左衛門）　盛次（源左衛門）

盛平（伊右衛門）　盛國（藤左衛門）　盛國（藤左衛門後為鍔工ト）

○同　定時弟子系

定時（称ス平八ト姓氏未詳寛永年間従伏見下テ住ス加州ニ賜禄三百石ヲ）

弟子
定景（新右衛門）　定次（吉六郎）

○同　辻山城守弟子系

辻山城守（寛永年間従伏見下テ住加州ニ賜禄百五十石ヲ）

弟子
友重（助九郎）　友次（三郎右衛門）　重長（新七）

重次（喜八郎）　政平（勘七）　政信（勘兵衛）

○同　宗吉弟子系

宗吉（称ス兵部正保年間従伏見下テ住ス加州ニ賜禄百石ヲ）

宗次（次郎）　宗長（九郎次）　長重（九郎右衛門）

長吉（久次郎）

ガラス使用

○同　忠平系

忠平　稱ス三郎兵衛ト正保年間從伏見下テ住加州ニ賜禄五拾俵ヲ

忠清　庄太郎

○同　勝木氏并弟子系

氏家　稱ス權大夫ト寛永年間從伏見下テ住ス加州ニ賜フ十五人扶持ヲ學フ彫ヲ於顯乗ニ云フ

兄　氏家　稱ス市兵衛ト氏ヲ改ム金ニ子ト為ル御細工人ト

氏家　市兵衛

弟子　氏永　喜兵衛

氏長　喜兵衛

氏次　六郎

氏清　覺兵衛

弟　氏屋　稱ス市郎右衛門ト本家ヲ相續ス

永清　御細工人ト後ニ氏ヲ改メ田澤ト為ニ

氏宣　稱ス武兵衛ト勝木氏

氏賢　覺之丞

兄　氏宗　三郎

弟　氏安　吉郎兵衛

氏安　吉郎兵衛

氏安　吉郎兵衛

氏吉　權之丞

氏安　稱ス權吉ト後為ニ彫物工ト

弟　氏照　後ニ改若林氏春彫物工

氏平　八郎兵衛

氏照　吉郎兵衛為ル彫物工ト

氏次　圓七後為ニ彫物工ト

氏喜　稱ス市之丞ト彫物上手

弟子　氏信

同　氏忠　八大夫

同　氏成　次兵衛

右ノ外加州ノ工人猶多シトイヘ氏其系譜サダカナラズ或ハ其名キコエザルハコレヲ畧ス凡加州ノ工人其始多ク城州

ガラス使用

伏見ヨリ至ルヿハ、往日太閤秀吉公御居城アリシ頃ハ、今ノ三都ニモマサレル繁昌ノ地ナルニヨツテ、四方ノ名工多クアツマリ居レリ、シカルニ元和御一統ノ後、其地荒廢ニ及ヒ、工人等四方ニ離散スベカリシヲ、加州ヨリ名レ、御扶持ナド下サレシ故、其子其弟子彼地ニ相續シテ、今カクノ如シト云ヘリ

○

阿州平田氏系

丹齋　元祖　平田氏

氏直　稱正阿彌市左衛門ト、蓋京師正阿彌某ノ弟子也、阿州象眼工以テ此人ヲ為祖ト

氏安　稱與八郎　平田氏

安房　稱市左衛門　平田氏下同

正安　稱與八郎　○以上五代專ラ作鋲象眼鍔ヲ末兼彫物ヲ

正親　稱市左衛門ト為津尋甫ノ弟子ト兼ヌ彫物ヲ

長房　稱市左衛門ト彫物ハ野村正次弟子

長秀　稱新五ト　長房弟

○

同　河野氏系

半兵衛　河野氏ノ祖粟山左源太弟子世々住ス德島ニ、實名時代等未詳、此ノ系皆以俗稱ヲ記ス之ヲ

五郎兵衛 ― 藤兵衛 ― 五左衛門 秀治

弟子 七右衛門 ― 彌兵衛

五左衛門 秀宜 ― 半助

弟子 半蔵

ガラス使用

○紀州金子氏系

吉之丞（丹州綾部産 自幼京住ト云）——義貞（吉之丞子）

吉治（義貞子）——忠長——利與（自此為紀州御抱）

義光（後號恕元上手）——義則（義光子有故承菱後藤近江守譲兼勤）

義安（義則子 御所御用太刀調進）

右ノ外諸州彫工系譜得テ盡クシルシ難シ。他日後編ヲ纂述シテコレヲ補ント欲ス。故ニ此ニ其手近ク知ルベキモノヲ挙タリ。覧者其全カラザルヲトガムルヿナカレ

○彫工名譜

此名譜を編するに。凡彫工と呼来るに。姓名をしるしてもあり。又名ばかりをしるして姓の知れざるあり。或ハ姓名をしるさずして。俗稱にていふありて。一概に定がたきにハ。今其姓をすてゝ名の頭字を類聚して歯列を。たとへバ。宗珉のごとく。すべて頭に宗の字あるにて。奈良宗貞も。埋忠宗義も。妻谷宗左はつなしまでて。宗の字ゆゑ。頭とするものぞ。咸此下に収む。其他。利。忠。安等

ガラス使用

ゝなきなり。又類字なきハ。混雜の條にまじへて是を捜索に便ならしめんが爲し。但し後藤の家を同苗の諸工ハ此類字に收めず。これがしりへに載る事。其家號にかゝげてなり。此譜中父子師弟等の次第。系譜にみえしたるものも。これ重出せず。又其工名乃品位を題せるものハ。多年余がみるにふれ。目を經るにまかせて。是が評する所なれバ。其當否を忽まざるにあらねど。凡これが業として。人がこれに用ふるものハ必ずを的とあやまるものにあらざれバ。童蒙乃目巧に志あらんにハ。先余が品題をよくふまへて。自己乃才機を活用せず。是を精にあるべし。是余が庶幾する所にして。此書を纂述せる微旨なり

○後藤家并同苗諸工

祐乘　以㆓實名㆒爲㆓法名㆒相傳フ以㆓狩野元信下繪㆒彫ㇾ之ト云フ

裝劍家にこれが元祖と稱して。其價甚貴し。此人高彫といふ事が創意せしまで。其巧人爲に出づ。今これがものにたとふるに。峨眉天外雪中看と。元美が評せしごとく。美にして善なるものなり。今

ガラス使用

其光景（クワウケイ）をたとふるに所謂（イハユル）未央（ビアウ）乃柳（ヤナギ）風（カゼ）になびき、太（タイ）液（エキ）乃芙蓉（フヨウ）露（ツユ）にそゝぐごとく、品（ヒン）高（タカ）く趣（オモムキ）風流（フウリウ）り。玩（モテアソ）ぶ人をして心を温和（ヲンクワ）ならしむるの徳（トク）あり。其鏨（タガ子）痕（アト）踈（ソ）なるがごとくにして密（ミツ）に、神機（シンキ）活動（クワツドウ）実（ジツ）に此工（コノタクミ）乃聖（セイ）といふべし。其下世（カセイ）（カクレヌル）五月七日なるを以て、今に月々（ツキヅキ）乃七日には監記（カンキ）（ヲリカミ）を出（イダ）さる

二代　宗乗　武光　祐乗子

其わのむき、元祖（グワンソ）に似（ニ）く、出来（デキ）まさりのハ至て上うちがらし、か乃あやめかきなどの手ぎハさく濃（コ）からず淡（ウス）からず、時（トキ）にくれさゝぎけるがごとく

鑑賞（カンシヤウ）（メキヽ）は精（セイ）（コウシヤ）ならざれば、又あやまる事おほかるべし。よく気付べし

三代　乗真　吉久　宗乗子

其鏨（タガ子）のあとまろく、山高（タカ）く谷（タニ）ふかうして、凛然（リンゼン）（スサマシキ）たる手際（テギハ）なり。目貫などにて、金或ハ赤銅にても地金（ガ子）うすく上へもり出て、これを出（ダシ）といふ。おほかたもり出しても地（ヂ）がね破（ヤブ）れざるに、色絵（イロヱ）を施（ホドコ）せるを、うつとりと称（シヨウ）じて、当時（タウジ）（ソノジブン）はやりたれど、今ハこのまず。又ハ象眼（ゾウガン）など入る事、此人に興（オコ）りて、家彫（イヘボリ）れうちまで乃異体（イテイ）（カハリモノ）なり。其工（タクミ）をものにたとふるなり。

ガラス使用

赳〻たる武夫の干城となり。腹心となるがごとく。たけきうちに。しほらしみある上にして。畢竟は父祖の花を異にして実を同うせしものなるべし

四代 光乗

光家一ニ稱ス祐伯ト乗真ノ子

元祖乃こゝろもちにて。上品に位ある彫なり。にほよかしこそよわからず。其さまは譬へば。松陰にやすらひて。桜の花にむかふがごとく。やんごとなき上臈の紫の戸ぼそにきてながむるがごとし

五代 徳乗

光次光乗ノ子

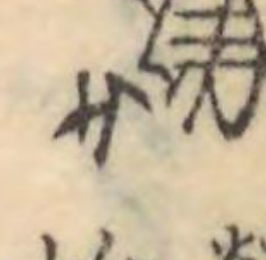
所謂むつくりといふ彫にて。光乗の作に見紛ふもの多し。今これを譬へば。春乃海面遠く。おくれさきだつ帆に。うきくゝ。霞のうちにそはまかくしぬがごとし。折紙を添ゆる事。此時にはじまりて。下後藤も此代によりきたりと

六代 栄乗

正光徳乗ノ子

其趣頗る光徳両先生の錬磨を取あはせて。おしほつとりとふ風なり。物にたとふるに。総角の野飼をおひ。夕顔さけるあたりに。たゝきてくるがごとし

ガラス使用

七代
顯乗　正繼  榮乗弟　叙法橋位　始稱理兵衛

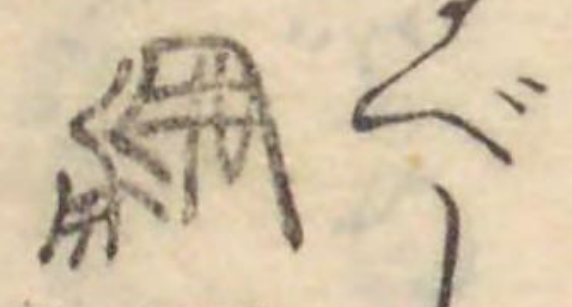
光乗は手つきよく似て。雪のふりたる事。松と竹とのけぢめをしらず。ことはりそむかざるがごとくみさほは我やる（ニモ）ものちあらそはれず。寛永のころ此人（加州中納言殿より禄百五拾石を下され。京師より。栄乗交代にて隔年金澤に在留す。しかるに栄乗死去して。即乗幼年なるが故に。家督をは續せられずして。禄を。程乗に譲られし之）

光重　榮乗子

八代
即乗

顯乗は風に似（ニ）ておとなしくてまだよく健（スコヤカ）なる彫之世に三作といふは。祐光顕乗とあるべき所なるを。祐光即乗と八代目は即乗を立し。此人二十八歳にて

物故（モツコ）せられしゆゑ。其遺作（ノコルサクモノ）世に多からざるが賞（シヤウ）して。あながちに三作の一（ウチ）に入しものと思ふてしからず。名人にして稀（マレ）なるがゆゑに。長命（チヤウメイ）にして錬磨（レンマ）を歴（ヘ）ば。父祖（フソ）にまさるべきこと。賞しらく三作の一（ウチ）とせし事。鑑賞家（カンシヤウカ）（メキヽシヤ）は意地（イヂ）なり。一に通即光を三作とするは。元祖の作は神境（シンキヤウ）及びがたき名工なりとはけものにして。これを三作といふなるべし。是又此その微意（ビイ）ならん

九代
程乗　光昌  顯乗子　叙法橋位　程或作呈　始稱理兵衛

此人の作（サク）。甚だ奇麗（キレイ）にて。品（ヒン）高（タカ）く位（ヰ）そなはりて。

ガラス使用

誰がみても作の物と賞せる彫なり。されば代々今よりも遠からねど。光乗などの風ともいえん。古色あり。かしたがひめ深く。たうくあざやかなり。また光景江に臨高楼の珠簾をかゝげて。秋の月を詠がごとし

加州より顕乗に下されし禄を受て。隔年に彼地に寓居せしに後屋敷を下されし。今も其跡のこりて。壷野石に伯牙の図を彫し。程乗作の水鉢あり。壷野石ハ加州の名産にして。金澤城南の山中より出て。其質城州宇治石のごとし。此山今ハ留山なり。即乗早世せられし。廉乗幼少なるゆへ。加州より賜る禄を悦乗へ譲りて。本家相続せられ。此時代京師より下り彫師を多く連下ルと云

十代
廉乗　光侶　即乗子

おとなしく大様なる所あり。かの光源氏の物語よむに。明石の上の事を書きあやうにかきし。おもかげともいえん。殊に米子あまたありとすてられて。壽も長からざりし故。此作多く残れり。其子光喜といふあり。甚巧にして。名人のいさほし。たのもしかりしに。夭折せられて。其作今に稀なりをしむべし

十一代
通乗　光壽　仙乗子

三作の一にて。細工をでなり。花を彫ませて匂ひこゝろへ。多残たくみなれバ。飛立かときづかはれ。人物なども。生るがごとく。むつましくものいひかはさんが

ガラス使用

ごとく、言外乃妙あり。むかし偃師といふ工、周乃穆王に献ぜし人形は歌舞をなせしといへるハ、一時の戯れにかりそめなるものにて、是ハ彫琢自然の活機にして、人の目をうごかすにあらず、人の心よりうごくところの妙なれば、万世の至宝といふべし。豈賞して且さふをまなばざらんや

十二代 壽乗

光理 （通乗子）

通乗は作とま違ひ、今は光孝の出来物の位なり。よく其道をまもり、功を全くせし作といふべし。

かの常山の蛇にはあらねど、首をうてバ尾にこたへ、尾をうてバかしらにひゞきて、勢ひ中に在といふべき作なり

十三代 光孝

此自身彫附判

此極彫附判

稱四郎兵衛、壽乗子

江戸京橋壹丁目住

今ちかごろ没。其作を評せんに、時によりて出来不出来あるや。よく出来るハ通乗乃如くにて、目巧を苟せざれバ、みあやまるまでの妙なるぞ。誠に箕裘をつぎたる所にして、天の此家に私し給ふ事、名工乃徳といふべし。元祖世を去り給ひ、已に貳百六十餘年にをよびて、其代々人乃

ガラス使用

作物年〳〵に秘（ヒメ）て其價（アタヒ）日〳〵に貴（タフト）く權貴（ケンキ）の御重寶（チヨウハウ）となる事。子孫代〳〵名工出（イデ）て。元祖の業（ゲフ）を潤色（ジユンシヨク）せらるゝによりて。是ひとへに聖代（セイタイ）に逢（アヒ）て刀劔（タウケン）乃徳（トク）をたのしミ。これを装飾（サウシヨク/ヨソホヒカザル）して其威（ヰ）を増（マス）のめでたき事なりしに。後藤氏乃家の名が代〳〵ともに。たえず衰へざる事。松栢（シヨウハク）にいなひ。鶴亀（ツルカメ）にちぎりて。盡（ツキ）ざるをもて。此（コレ）を生業（セイゲフ/ナリハヒ）とする。おのれらが大幸（タイカウ）とするべし。今ならず。諸工乃ほどを品題（ヒンダイ/ヒヤウバン）する事。としごろ乃冥加（メウガ）を報（ムク）ふの漫言（スヾロゴト）なれば。人これを罪（ツミ）する事なかれ

後藤同苗ノ諸工

同苗（ドウメウ）乃譜第（フテイ/レキダイガキ）。前（マヘ）の系圖（ケイヅ）に著（アラハス）といへども。從凡易（ヤス）からしめんが為（タメ）に贅（ゼイ/イヤガキ）を。其品題（ヒンダイ）に至ッては。言（コト）繁（シゲ）ければ。後編に譲（ユヅ）りてこれを略せり

昌乗

元祖の弟にて。納子（ナコ）の名人なり

元乗[illegible]

喜たおつと称（シヨウ）し。光乗の弟なり

ガラス使用

琢乗

諱（イミナ）ハ光宗（ミツムネ）。孫左衛門と稱（シヨウ）ず。元乗（ゲンジヨウ）が子なり。

加州大納言殿御名（メシ）にて金澤（カナザハ）又能州（ノウシウ）七尾（ナヽツヲ）に在留（ザイリウ）

し後京師に帰（カヘル）と云々

石乗

諱ハ光經（ミツツネ）。喜太衛門と稱す。琢乗（タクジヨウ）子なり

傳乗

諱ハ光廣（ミツヒロ）。宇兵衛と稱ず。石乗弟なり

光利

孫太衛門と稱す。傳乗（デンジヨウ）が長子（チヤウシ）

乗巴

諱ハ光俗（ミツヨ）。喜兵衛と稱す。傳乗二男なり

光生

喜兵衛と稱す。乗巴が子なり

長乗

七郎兵衛と稱す。徳乗弟なり。上（カミ）後藤がはじめ

立乗

諱ハ光頼（ミツヨリ）。七郎兵衛と稱す。長乗子なり

覺乗

諱ハ光信（ミツノブ）。勘兵衛と稱す。立乗弟なり。寛永乃

ガラス使用

頃（コロ）加州黄門より三十人扶持（フチ）下しおかれ京師より顕乗と交代（カウタイ）まて隔年（カクネン）金澤に在留を

乗圓　又左衛門とよふ覚乗弟なり

乗仙　又左衛門とよふ乗圓子

昌乗　諱ハ光政（ミツマサ）市郎右衛門と称す乗圓弟

乗蓮　諱ハ光成（ミツナリ）伊兵衛と称す乗仙弟

乗清　源八と称す乗蓮弟

善乗　諱ハ光則（ミツノリ）瀬兵衛と称す乗蓮子なり

光質　一郎右衛門と称す昌乗子なり

寂乗　源實又源乗とよふ覚乗子なり

演乗　諱ハ光英（ミツヒデ）勘兵衛と称す寂乗弟なり覚乗死

ガラス使用

後其禄を襲（オソ）ひ悦乗と交代まて金澤に在留を其頃加州御用向（ムキ）乃彫工彼地に多きによりて御免（メン）を得（エ）て京師にかへり子孫今に加州より三十人扶持を下さる

光平

十右衛門と稱す演乗の弟

光武

三左衛門と稱す光（ミツ）平（ヒラ）の弟

達乗

諱ハ光（ミツ）房（フサ）勘兵衛と稱す演乗子なり

實乗

諱ハ光（ミツ）雅（マサ）達乗子なり

光令

勘兵衛と稱す實乗子なり

益乗

諱ハ光（ミツ）治（ハル）立乗の子なり

嶺乗

諱ハ光（ミツ）親（チカ）源四郎と稱す益乗子なり

清乗

諱ハ光長（ナガ）權兵衛と稱す立乗弟なり

ガラス使用

順乗
諱ハ光明（ミツアキラ）権兵衛と稱ス。清乗子なり

秀乗
諱ハ光豊権兵衛と稱ス。順乗子なり

光教
権之介と稱ス。順乗弟なり

益信
采女（ウネメ）と稱し。洞雲（トウウン）と號（ガウ）ス。法橋位に叙（ジヨ）ス。探幽（タンイウ）法印養子（ヤウシ）と成（ナリ）。画を善（ヨク）ス。彫物に於てハ多く見えず。後ハやゝ見しるや立乗子なり

海乗
諱ハ光綱（ミツツナ）。三郎四郎と稱ス。益乗養子

隆乗
諱ハ光定（ミツサダ）七郎兵衛と稱ス。海乗子なり

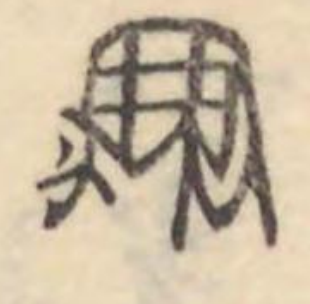
光維
七郎兵衛と稱ス。隆乗子なり

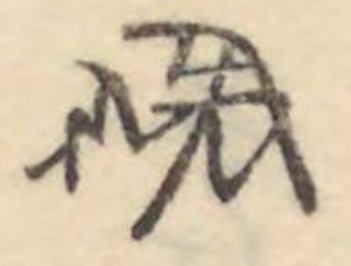
休乗
諱ハ光忠（ミツタダ）。源兵衛と稱ス。顕乗弟

運乗
諱ハ光如（ミツユキ）。源右衛門と稱ス。慶乗弟

ガラス使用

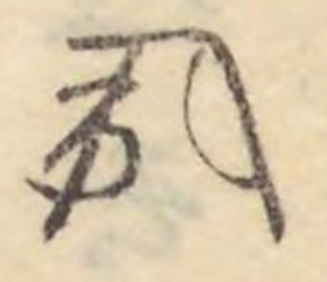
就乗
諱ハ光隆(ミツタカ)三郎右衛門と称す。運乗子なり

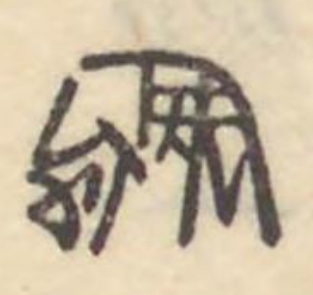
光舊 
源右衛門と称す。就乗子なり

源太郎 
就乗子なり

慶乗
諱ハ光詮(ミツノリ)源兵衛と称す。初(ハジメ)作乗と云。休乗長子

林乗
諱ハ光實(ミツザネ)半左衛門と称す。運乗弟

法乗 
諱ハ光方(ミツカタ)半左衛門と称す。林乗子なり

光信 
半左衛門と称す。法乗子なり

光敷
光信(ミツノブ)弟なり

即清
庄三郎と称す。即乗子なり

良清
良重(ヨシシゲ)とふ。小判座をたゝむ。程乗子なり

ガラス使用

悦乗

諱ハ光邦（ミツクニ）理兵衛と称す。程乗子なり程乗が名跡（メイセキ）を嗣（ツギ）加州より賜（タハ）る百五拾石の禄を襲（オソ）ひ。演乗と交代にて。隔年（カクネン）に金沢（カナザハ）に在留し。中年に有るが。御免を得て。江府に住す。其子孫今に故（モト）のごとく加州より禄（ロク）を下さる

光治

源一郎と称す

光倍

理左衛門と称す。悦乗子なり

寛乗

諱ハ光永（ミツナガ）。後光利（ミツトシ）と改め。八郎兵衛と称す。程乗が弟なり

俊乗

諱ハ光永（ミツナガ）八郎兵衛と称す。寛乗子なり

快乗

諱ハ光勝（ミツカツ）八郎左衛門と称す。俊乗子なり

般乗

諱ハ光富（ミツトミ）七郎右衛門と称す。寛乗弟

作重郎

ガラス使用

殷乗子なり

光黄　七郎兵衛と称す作重郎子なり

仙乗　諱ハ光清（ミツキヨ）太郎右衛門と称す殷乗弟なり

源之允　諱ハ光壽初光誰（ミツタゞ）といふ仙乗子にして廉乗乃養子となる

泰乗　諱ハ光尚（ミツヒサ）治左衛門と称す廉乗弟

乗與　諱ハ光近（ミツチカ）泰乗子なり

光奇　治左衛門と称す乗與子なり

乗賢　諱ハ光喜（ミツヨシ）源四郎と称す廉乗子なり貞享元年四月十九日没す二十九歳

光幸　源次郎と称す乗賢弟なり

光佐

ガラス使用

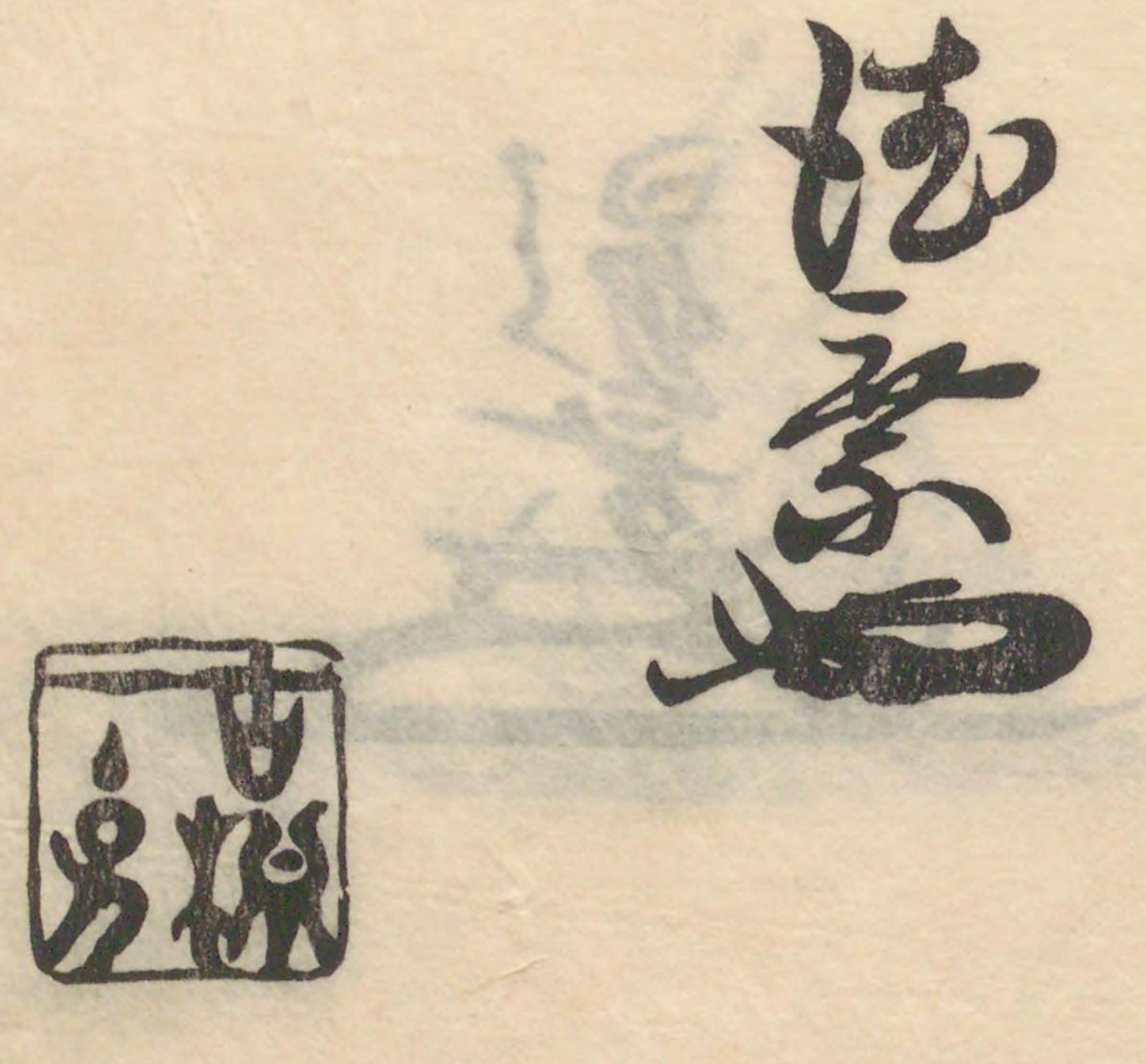
唯吉と稱そ壽乗子なり

光儔　吉五郎と稱ぞ光佐（ミツスケ）弟

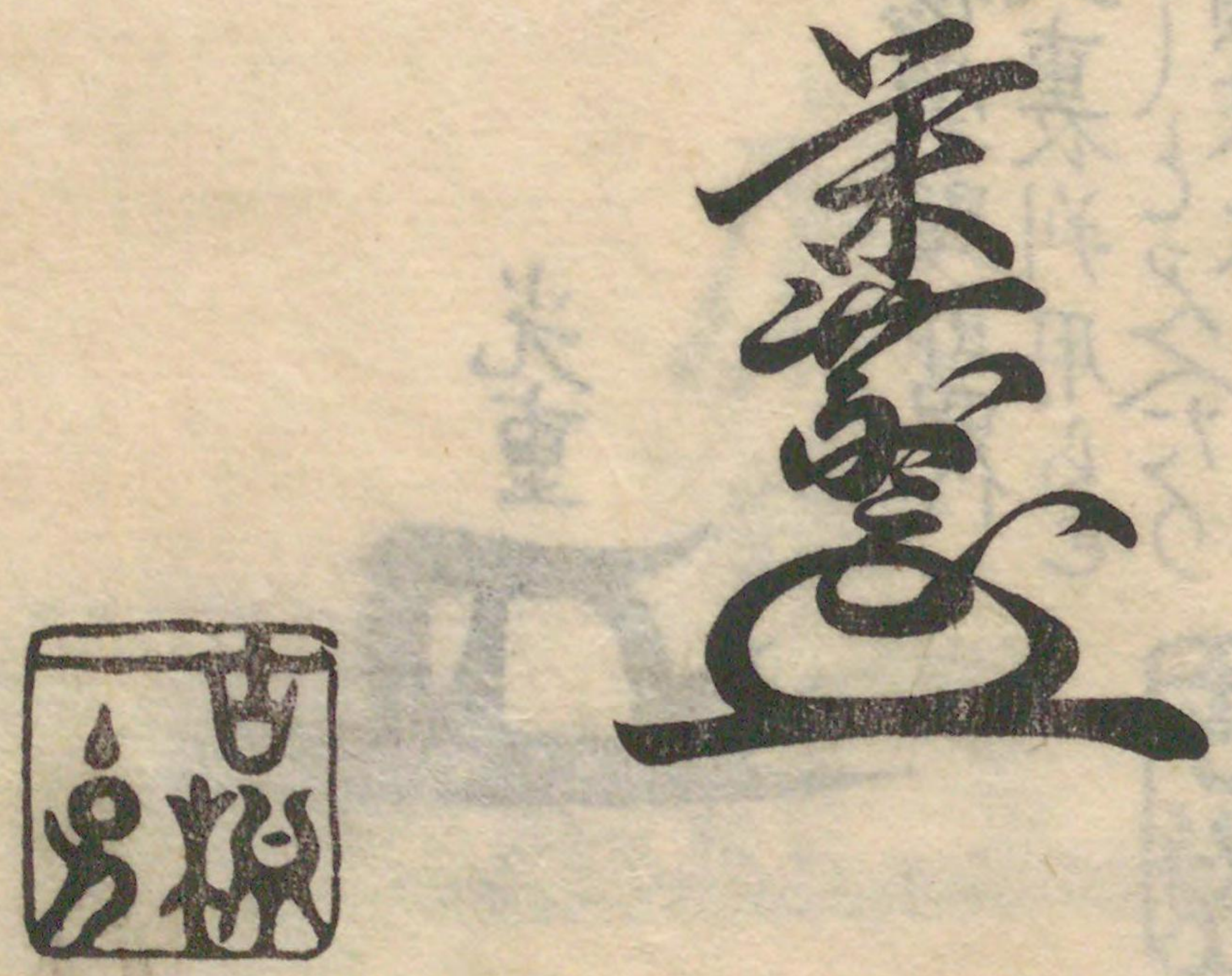
光典　吉次郎と稱ぞ光儔（ミツトモ）れ弟

附　後藤氏折紙花押并印記図

徳乗　五代目折紙此時ヨリ出ツ

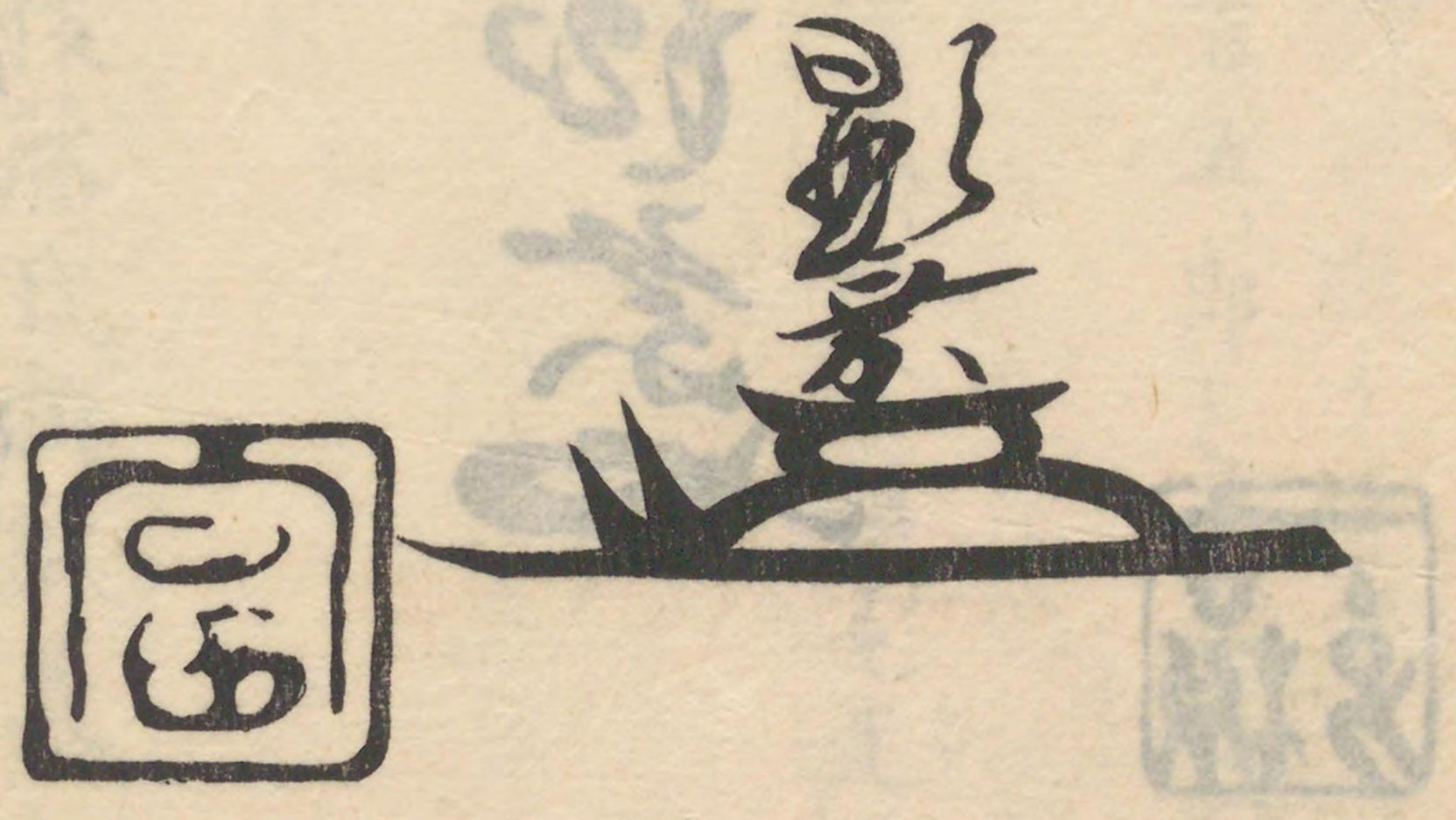


榮乗　六代



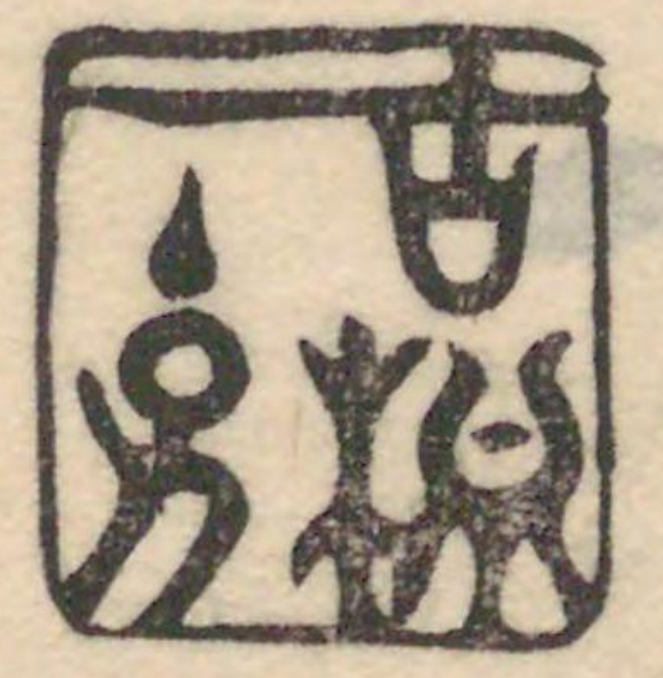
ガラス使用

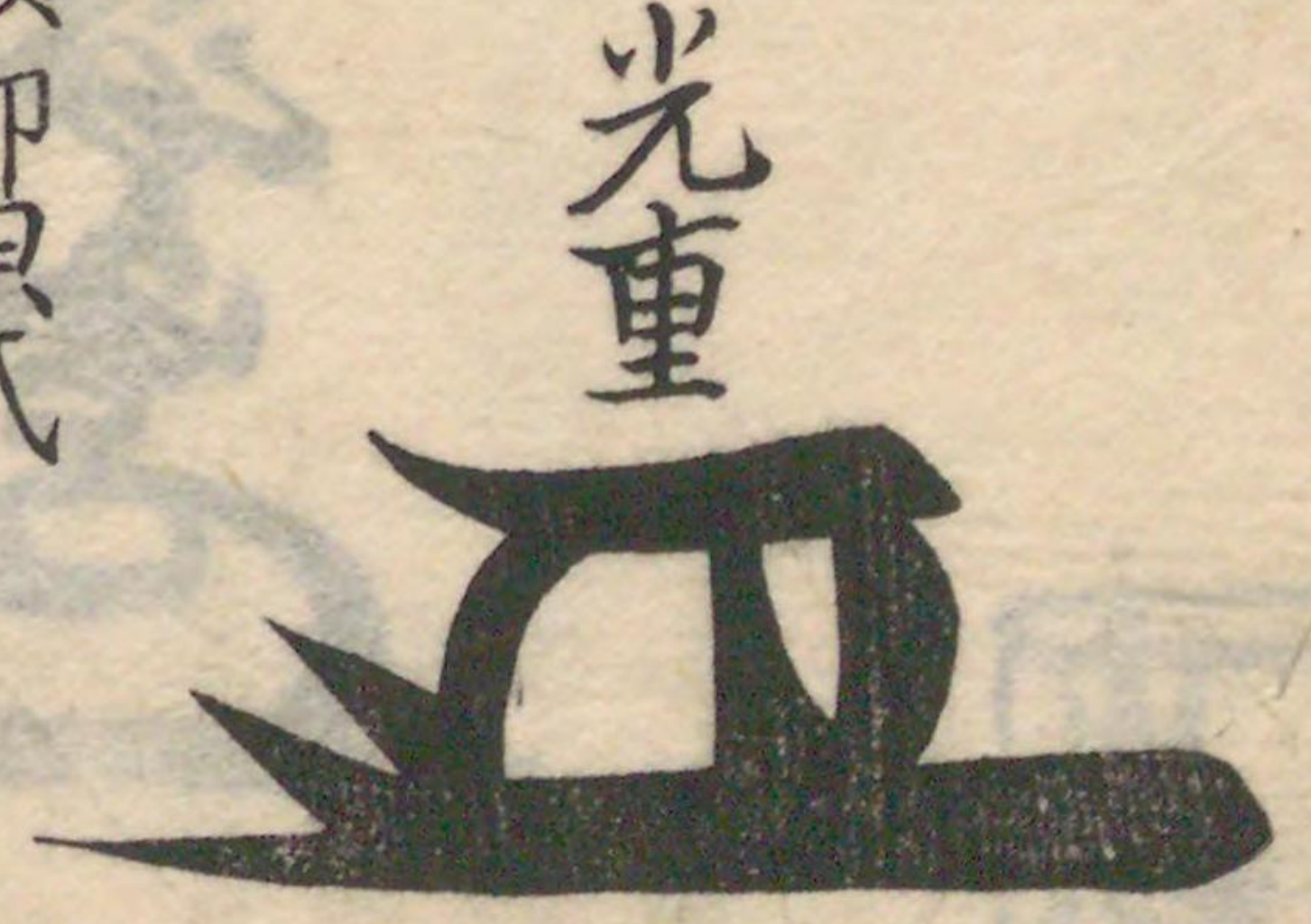
顕乗　七代



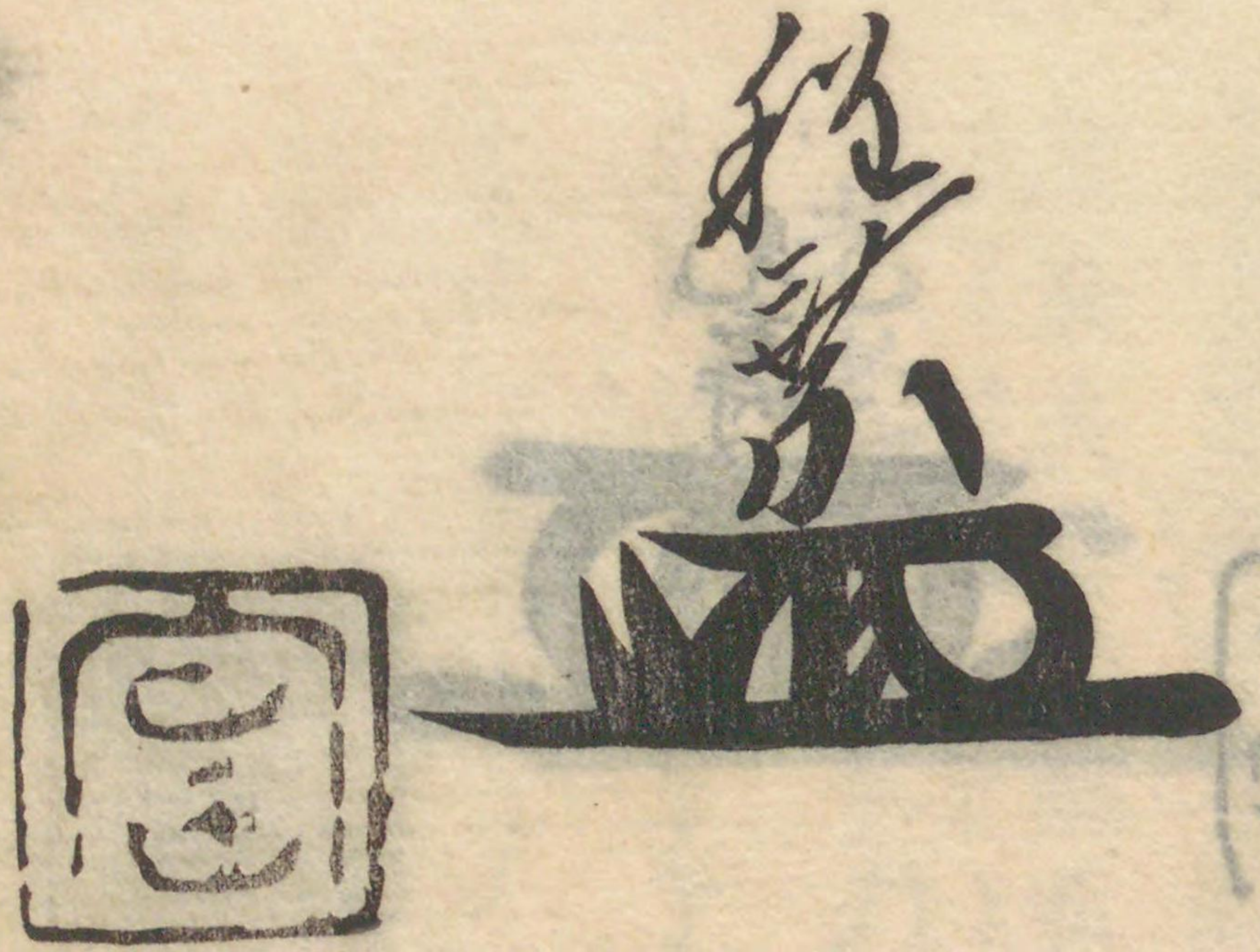
即乗　八代

徳栄顕即四代此裏表判用ら連しとへんたり顕乗はうりハ程乗同やうれ判用ら連事もありし由いうみや

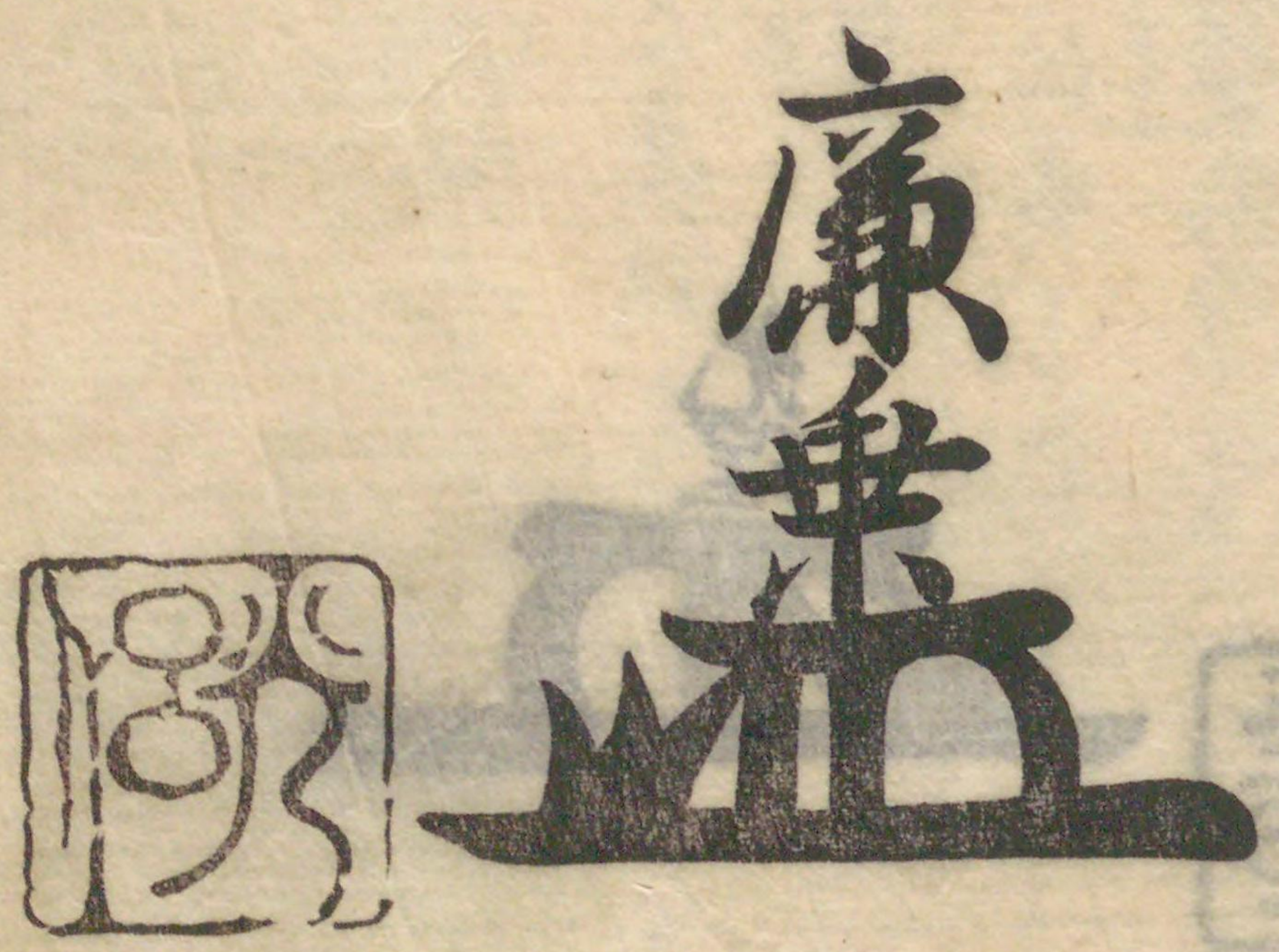




程乗　九代

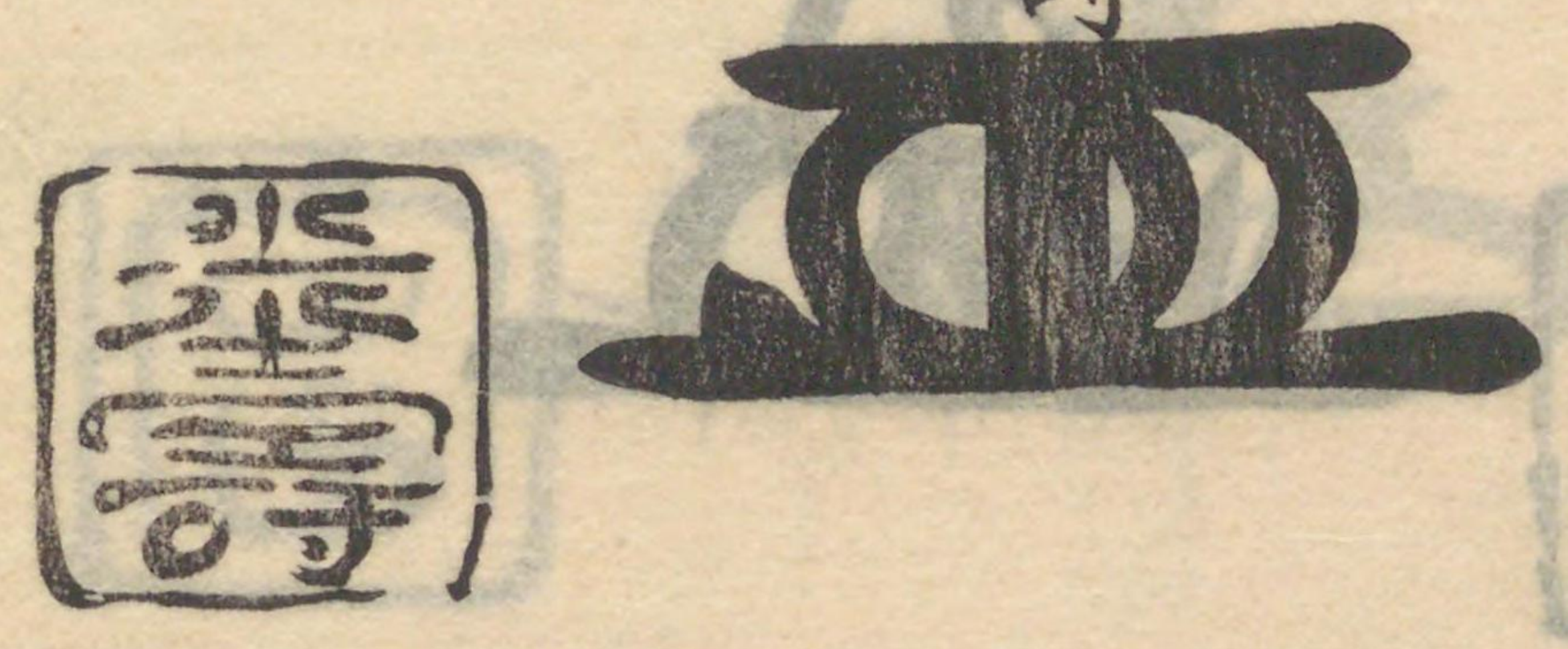


廉乗　十代

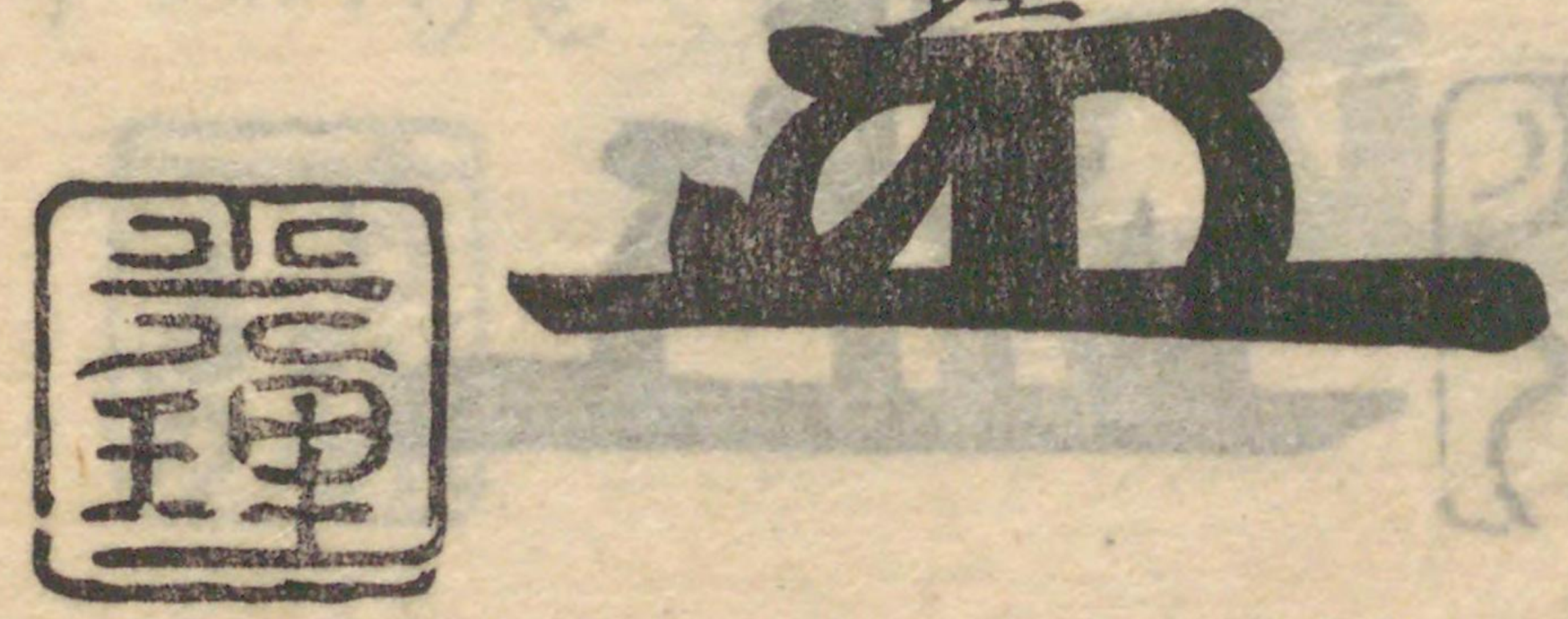


ガラス使用

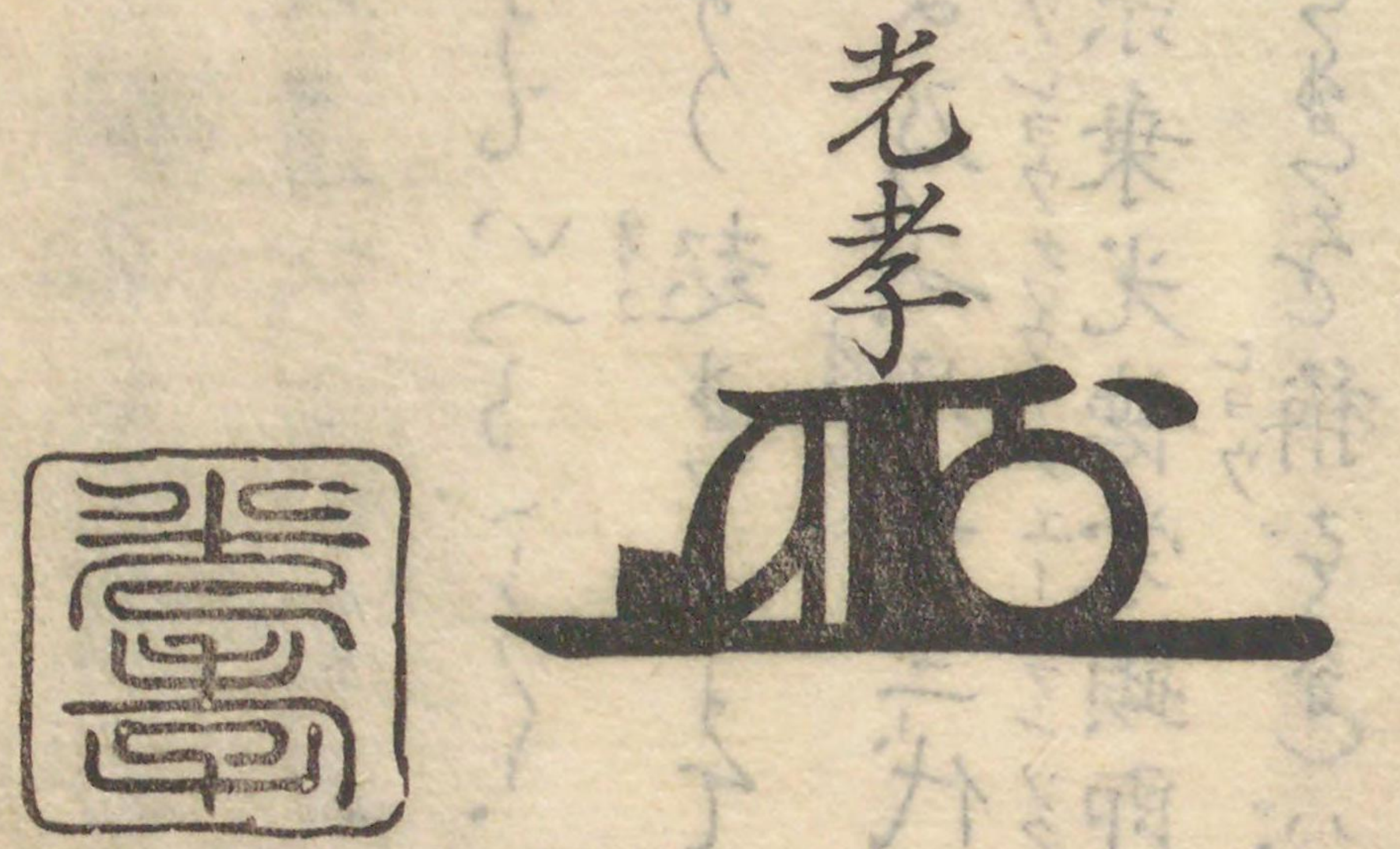
通乗 十一代



壽乗 十二代



當代 十三世



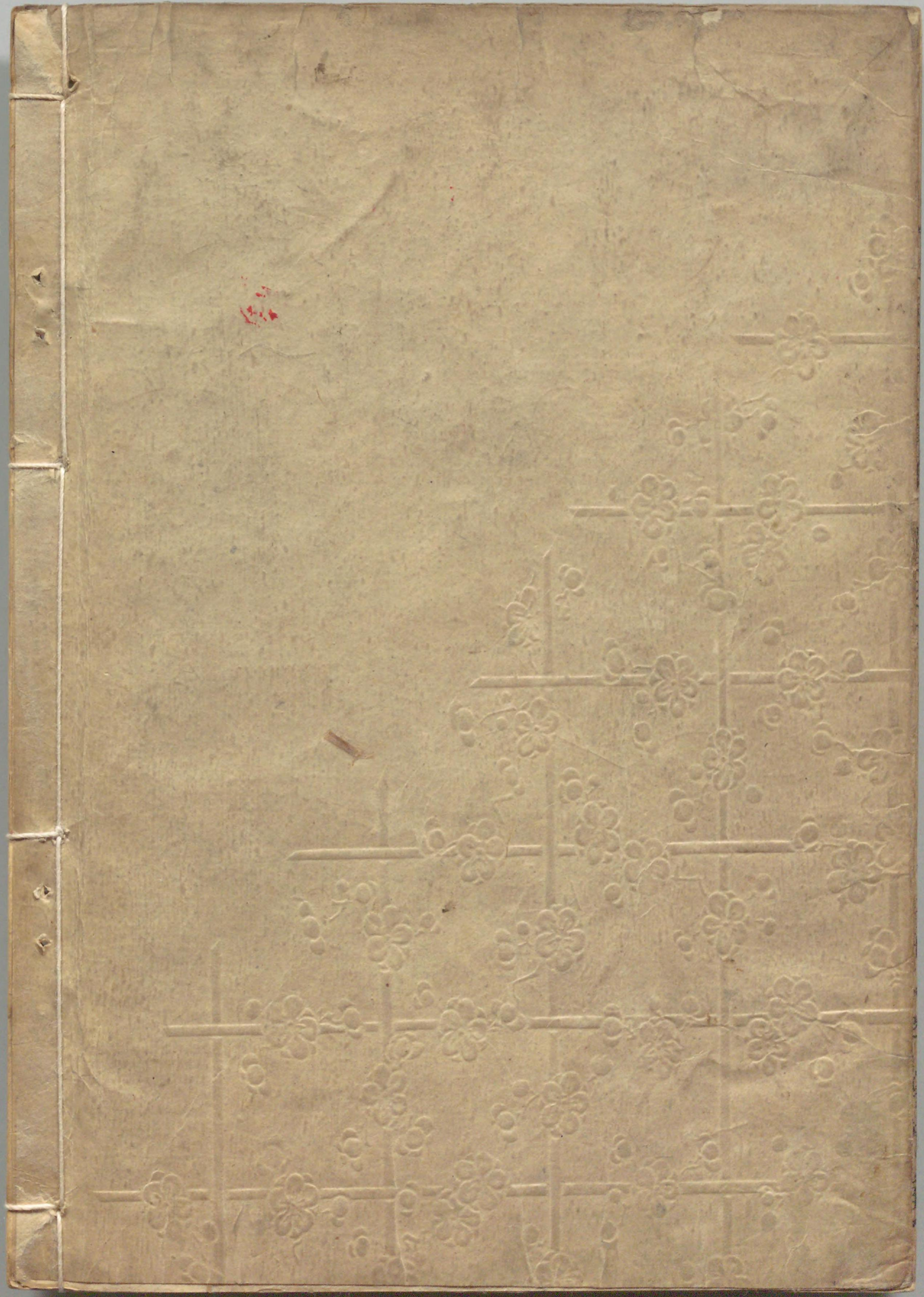
ガラス使用

139
7
209

右折紙に用ふ所の花押印記等。各本紙を摸寫するにまして。毫も差ことなし。是此道好このむ人乃。尤知べき緊要なり。前までいふごとく。折紙の出る事。五代目徳乗より起まり。よて此にこれを載して。當代に及ぶ。凡十三代乃次第を暗記せんには。祐宗乗光徳栄顕即程廉通寿と。指を屈して。これを称すれば。容易覚らるゝ事。誰もしる所なれど。猶童蒙の為にしるせり

装劍奇賞巻之二　終

ガラス使用



ガラス使用